

第7章 入学から現在までの意識と行動

1. 日本大学入学の理由

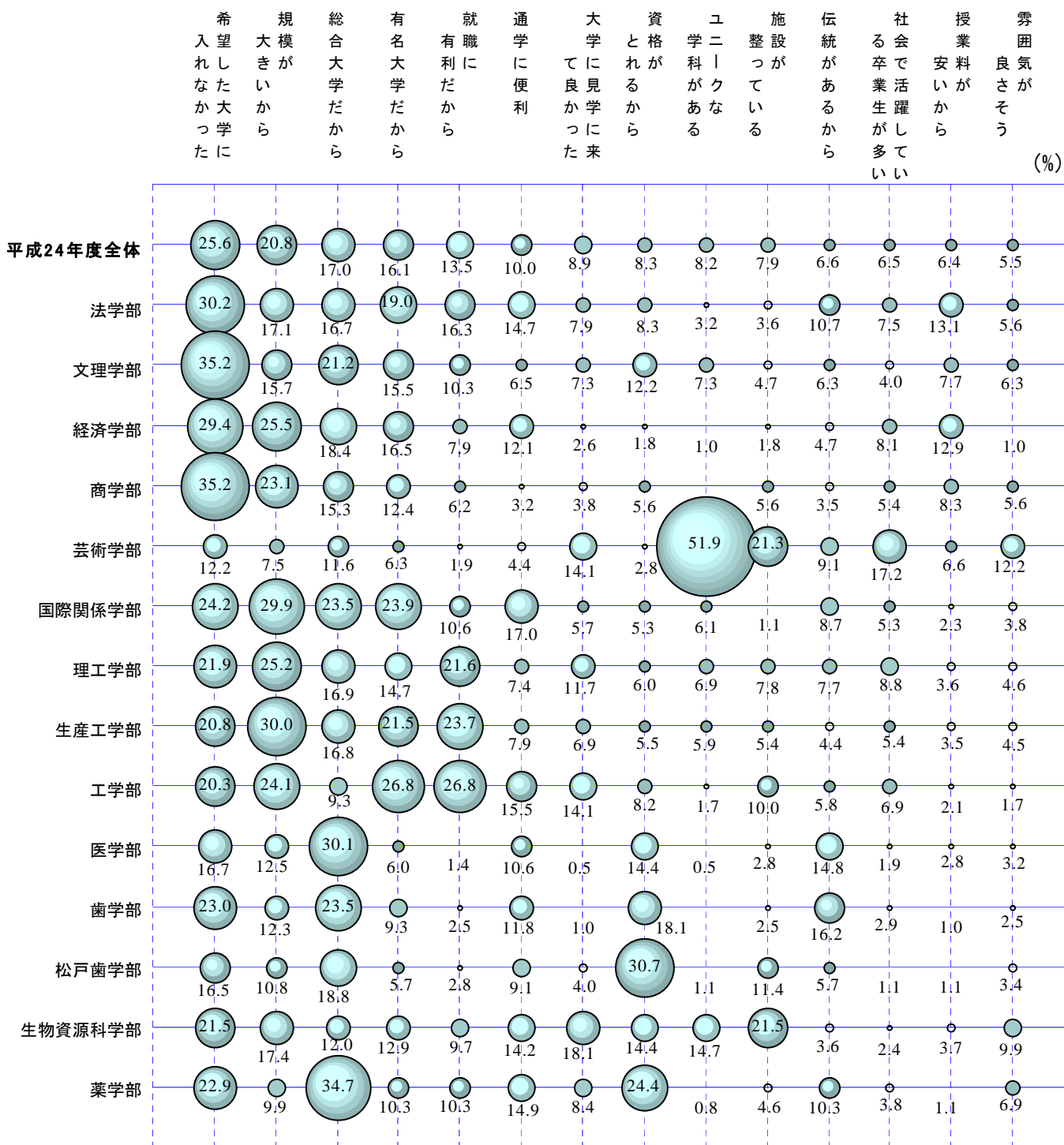
14学部84学科などを擁する国内有数規模の総合大学であることや知名度が入学理由の上位。

人文系学部では「希望した大学に入れなかったから」入学した学生の比率が高い傾向。

芸術学部は「ユニークな学科があるから」が断トツなど、全般的に3年前と同傾向。

本学入学を決めた理由を、全体での高い順に並べたものが下図です。全体で見ると理由は分散していますが、「希望した大学に入れなかった」が25.6%で最も高くなっています。次いで「規模が大きいから」(20.8%)、「総合大学だから」(17.0%)、「有名大学だから」(16.1%)と国内最大級の総合大学であることや知名度が入学理由の上位に挙げられています。

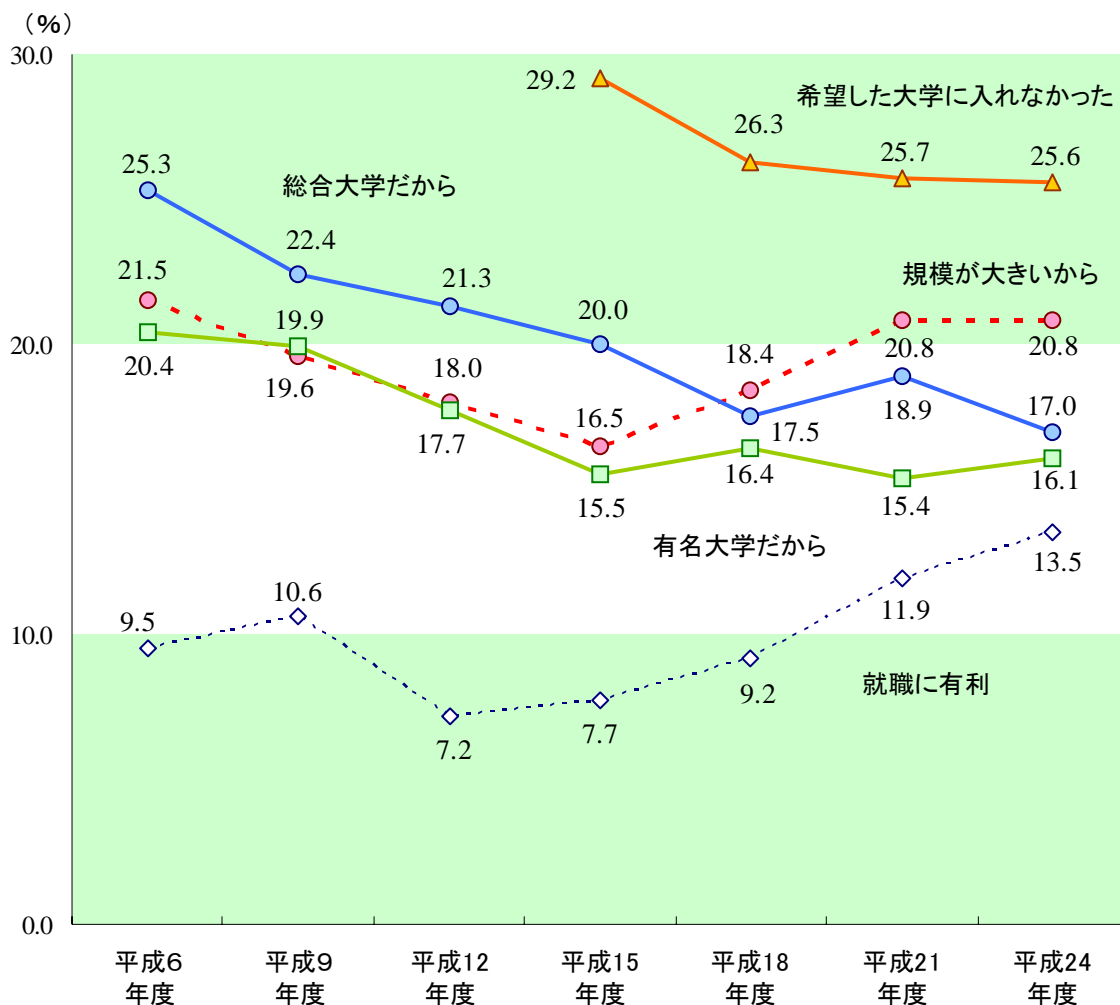
学部別に見ると、文理学部・商学部・法学部・経済学部では「希望大学に入れなかったから」が約30%以上と高くなっています。芸術学部では「ユニークな学科がある」が突出(51.9%)、薬学部と医学部では「総合大学だから」(各30%台)、松戸歯学部では「資格が取れるから」(30.7%)がそれぞれ入学理由のトップとなっています。3年前の調査結果とほぼ同様の傾向となっています。



2.日大入学の理由—主なものの経年変化

「希望した大学に入れなかったから」入学した学生は9年前より3.6ポイント減少。
「就職に有利」が増加傾向。学部の魅力度アップ・入試制度改変と社会情勢を反映？

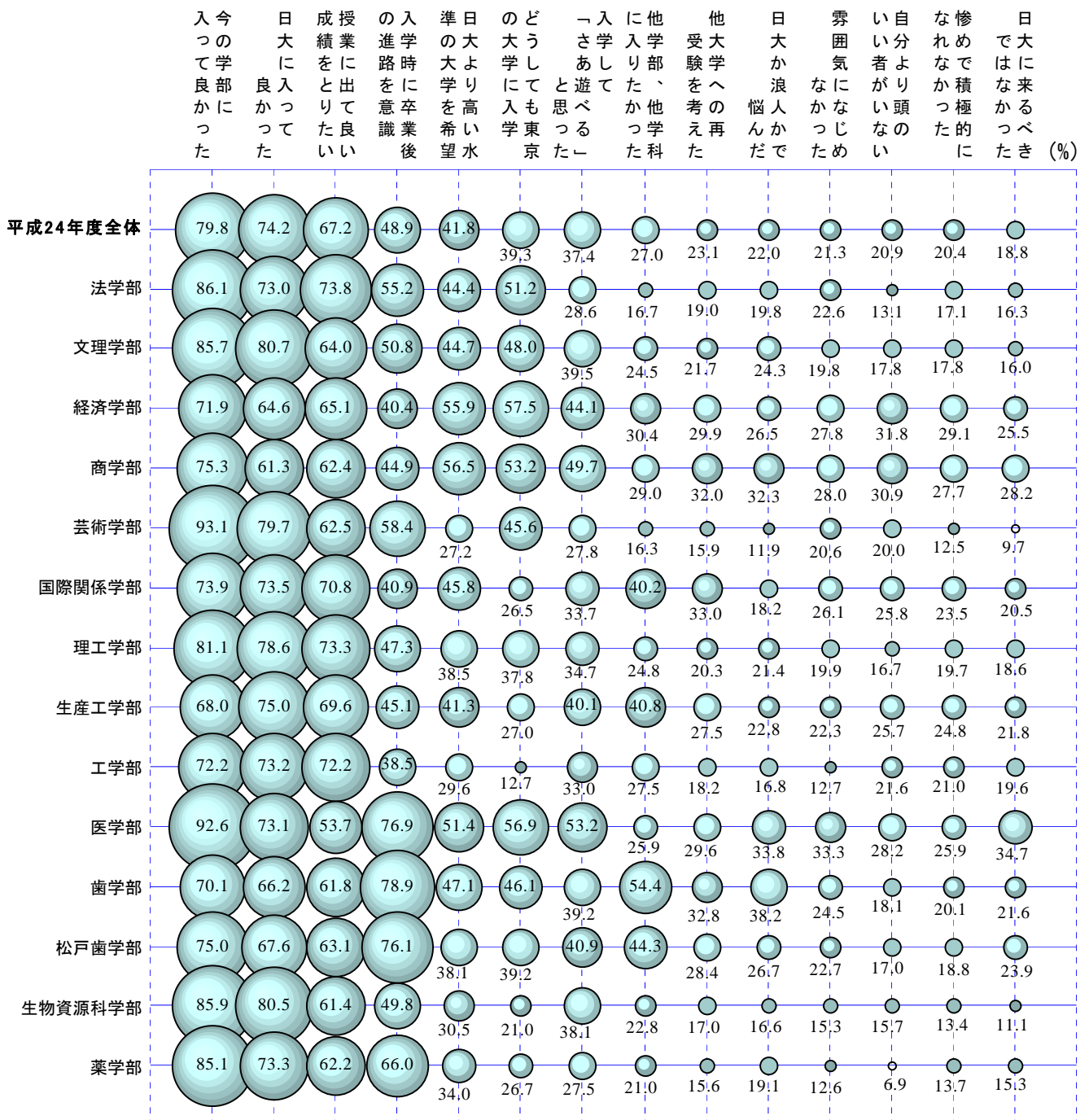
本学に入学を決心した理由のうち上位5位までの経年変化を見ると、「希望した大学に入れなかったから」は調査項目に含まれた平成15年度の29.2%から漸減傾向にあり9年間で3.6ポイント減少しています。法学部・生物資源科学部・薬学部では同期間に9ポイント前後と減少幅が大きくなっています。中でも法学部はこの3年間で10.5ポイント減少し、「就職に有利だから」が6.2ポイント増加しています。不本意に入学した学生の減少は各学部の魅力が強まったことに加えて、推薦・AO入試枠を増やすなど本学の入試制度の改善に関係している可能性があります。「総合大学だから」は平成9年度から減少傾向にあり、平成21年度にやや増加したものの18年間で8.3ポイント減少しています。医学部・薬学部・工学部・生物資源科学部・生産工学部・経済学部・理工学部では同期間に10ポイント以上減少が見られます。「規模が大きい」は直近の3年間は変化がありませんが、9年前から4.3ポイント増加しています（国際関係学部では11.6ポイント増）。「就職に有利」は平成12年度を底に増加傾向に転じ、12年間で6.3ポイント増となっています（生産工学部・工学部・理工学部・法学部で10ポイント以上増）。



3.入学直後の意識

入学直後、今の学部に入学したことに満足していた学生は8割。
日大入学が不本意だった学生は2割程度。

入学した直後の意識について全体で高い順に並べたものが下図です。全体では「今の学部に入って良かった」が79.8%、「日大に入って良かった」が74.2%と高くなっており、大半の学生が本学入学に関して満足していることが分かります。「できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った」と積極的な勉強意識を抱いて入学した学生が67.2%と3番目に高くなっています。その一方で、「日大に来るべきではなかった」「入学したが悔めで積極的になれなかった」と入学に不本意な意識を抱いていた学生も約20%ずつおり、経済学部・商学部・医学部で高めとなっています。芸術学部と医学部では入学直後の満足度が高い学生の比率が高く、「今の学部に入って良かった」が90%以上です。医・歯学部系では「入学時に卒業後の進路・就職をすでに意識」が75%以上と高い点が目立っています。

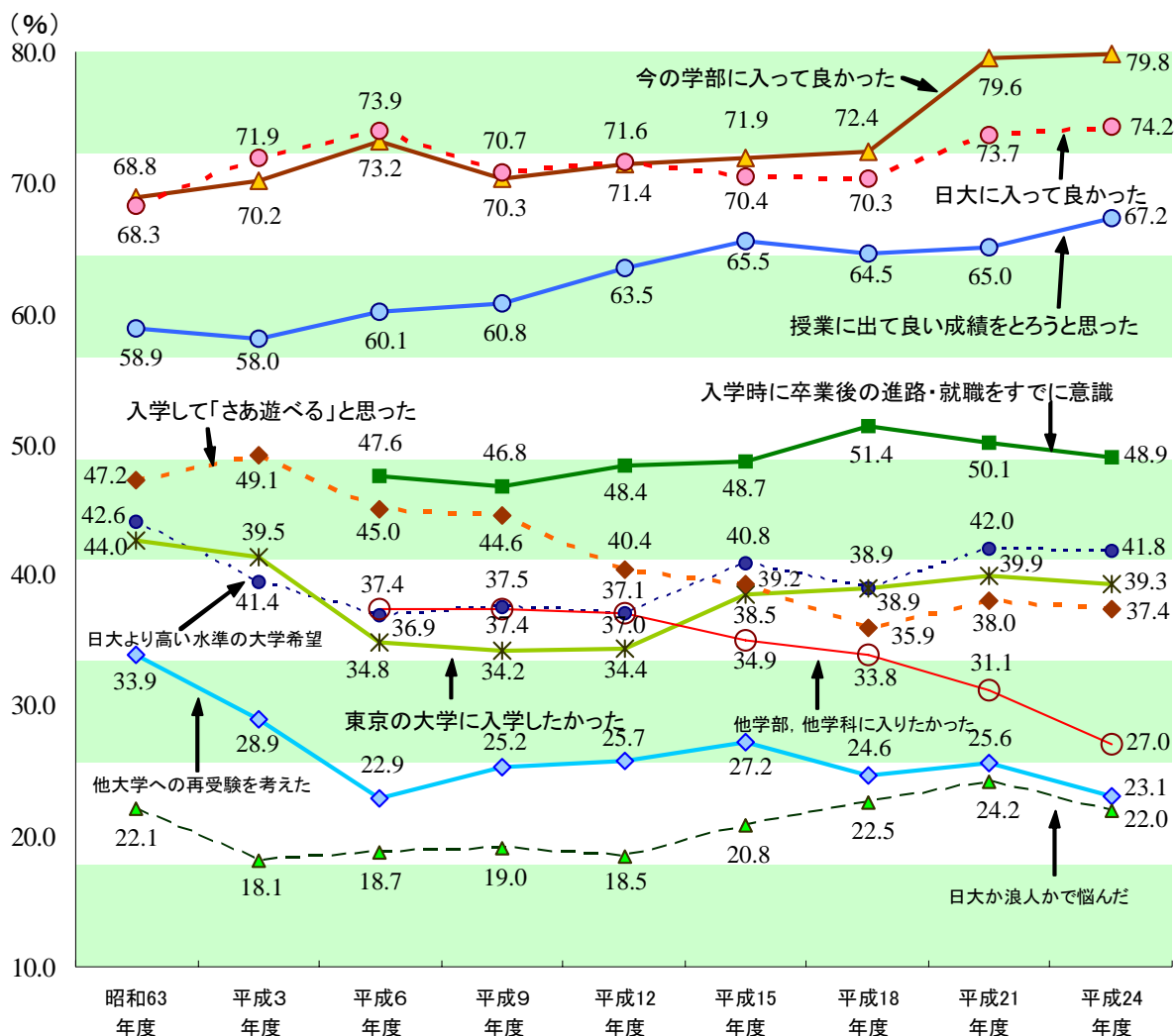


4.入学直後の意識—主なものの経年変化

入学直後の学部や本学に対する満足度は年々高まる傾向。

「多くの授業に出て良い成績をとろうと思った」学生も年々増加する一方で、「さあ遊べると思った」学生は減少傾向。入学直後から勉学意識の高い学生が年々増加。

入学直後の意識について昭和63年度（24年前）からの経年変化を見ると、「今の学部に入って良かった」が68.8%から79.8%と11.0ポイント増、「日大に入って良かった」が68.3%から74.2%と5.9ポイント増、一方「他大学への再受験を考えた」が33.9%から23.1%と10.8ポイント減、さらに「他学部、他学科に入りたかった」も平成6年度(18年前)の37.4%から27.0%と10.4ポイント減となっており、入学直後の本学・学部に対する満足度は年々高まる傾向にあることが分かります（この傾向が一番目立つのが生物資源科学学部で4項目とも増減が約5ポイント以上上回っています）。また、「できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った」が昭和63年度の58.9%から67.2%と24年間で8.3ポイント増、「さあ遊べると思った」学生は同期間に47.2%から37.4%と9.8ポイント減少しており、入学直後から勉学意識の高い学生が増加傾向にあることが分かります。この傾向が色濃く表れている学部は法学部と理工学部で、両項目で10ポイント以上の増減が見られます。

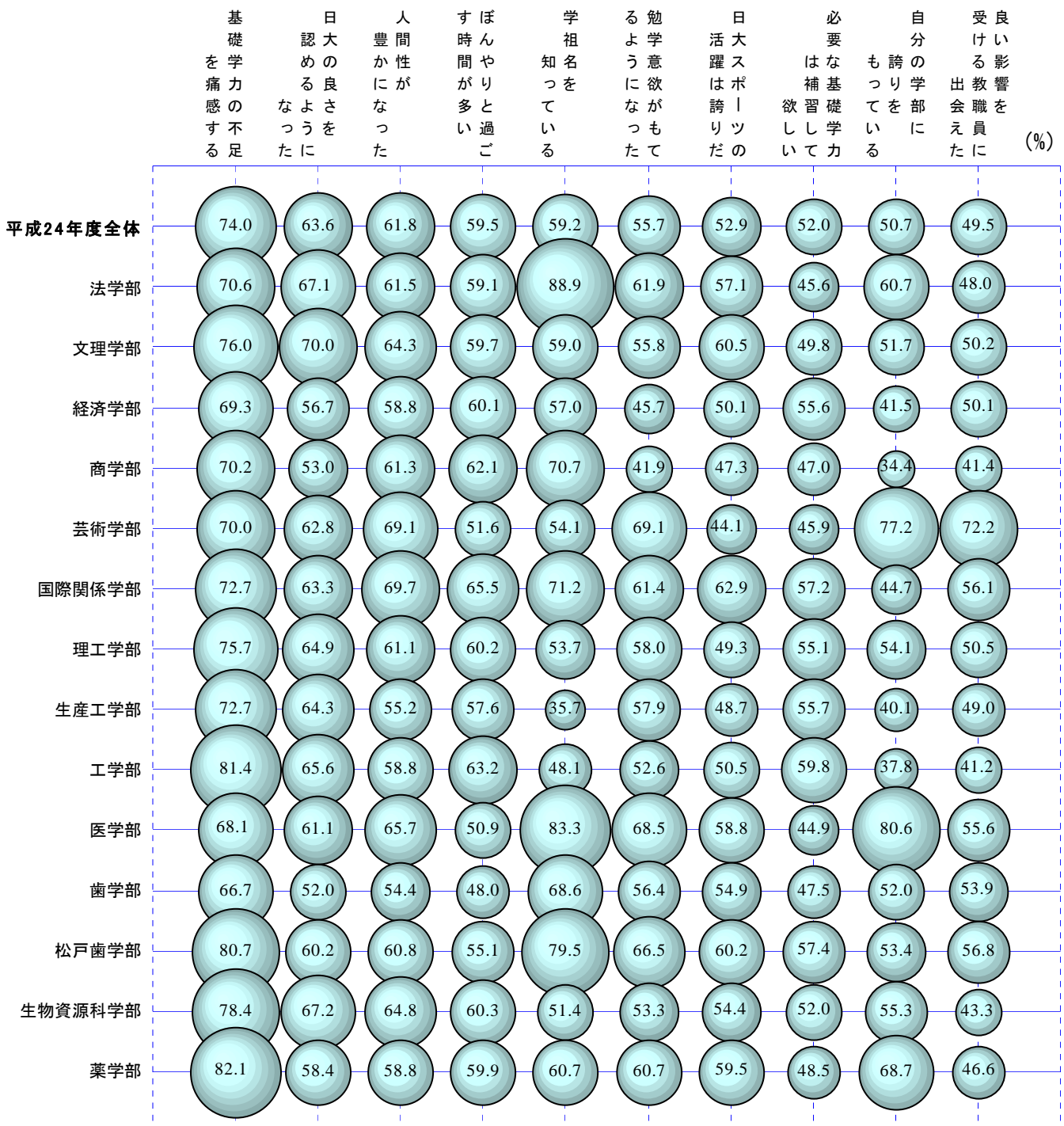


5.現在の意識・行動(上位10項目)

「基礎学力の不足を痛感」している学生が74.0%。全学部で高い傾向。
補習の要望も約半数。

学生の現在の意識について全体で高い順に上位10項目をピックアップしたものが下図です。

全体では「基礎学力の不足を痛感する」が74.0%でトップとなっています。次いで「日大の良さを認めるようになった」(63.6%)、「人間性が豊かになった」(61.8%)、「ぼんやりと過ごす時間が多い」(59.5%)、「学祖名を知っている」(59.2%)の順で続き、「勉学意欲がもてる」(55.7%)、「日大スポーツの活躍は誇りだ」(52.9%)、「必要な基礎学力は補習して欲しい」(52.0%)、「自分の学部を誇っている」(50.7%)と33項目中9項目が50%を超えています。「基礎学力の不足を痛感する」学生は、薬学部・工学部・松戸歯学部で80%超、歯学部・医学部・経済学部でも70%弱と全学部で高い傾向が見られます。

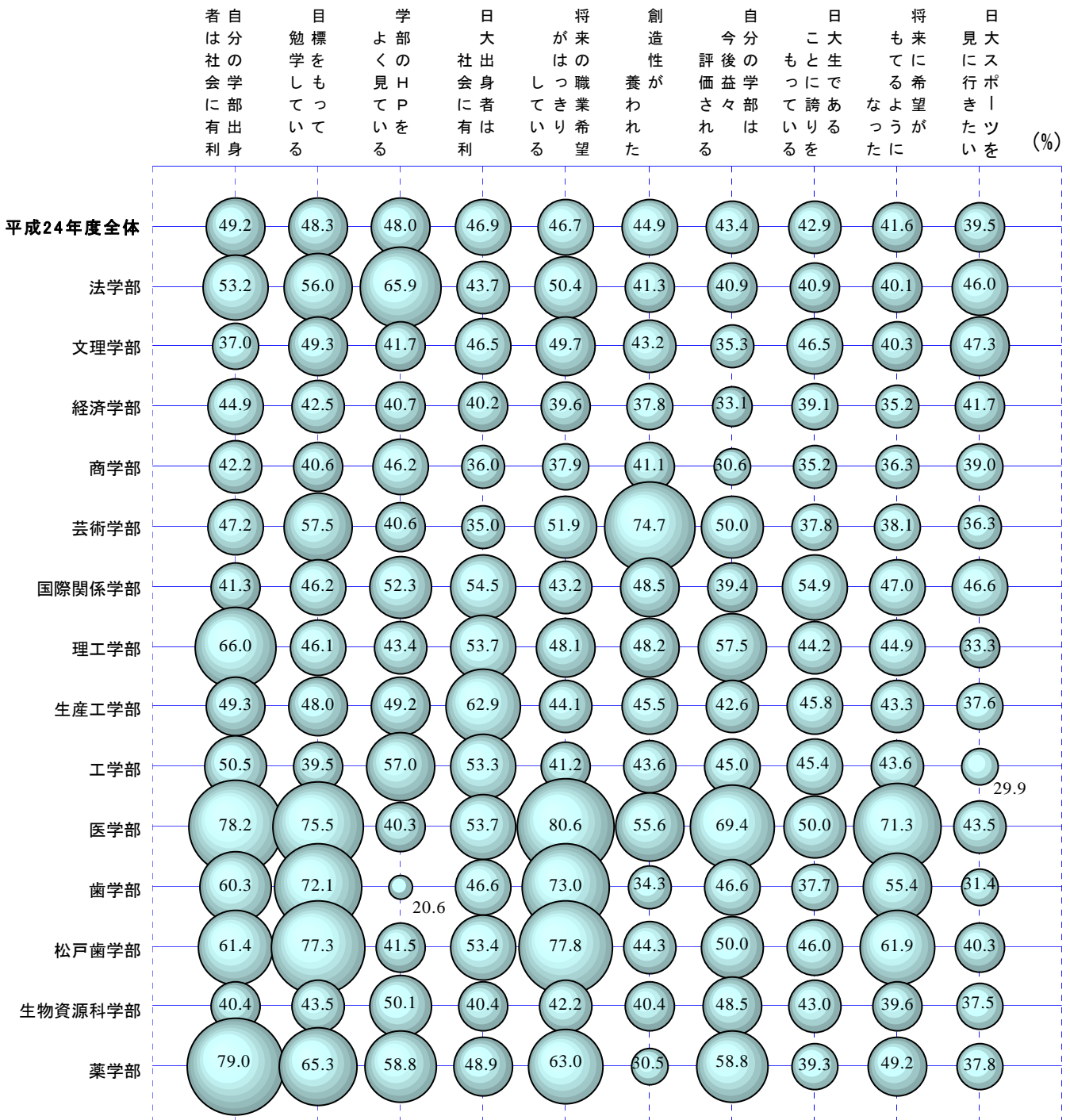


5.現在の意識・行動(中位10項目)

「目標をもって勉強している」「将来の就職希望がはっきりしている」「将来に希望がもてる」の3項目は医・歯学部系と薬学部が抜き出ている。「自分の学部出身者は社会に出てから有利」という意識は上記学部に加えて理工学部生も強い。

学生の現在の意識について上位11～20位までを表示したものが下図です。

「自分の学部出身者は社会に出てから有利」の49.2%から「日大スポーツを見に行きたい」の39.5%まで10%の幅におさまっており大差はありません。「目標をもって勉強している」「将来の職業希望がはっきりしている」「将来に希望がもてるようになった」の3項目は、医・歯学部系と薬学部で他の学部より顕著な差が見られます。また、「自分の学部出身者は社会に出てから有利」は医・歯学部系と薬学部に加えて理工学部でも66.0%と高い点が目立っています。「学部のホームページをよく見ている」は、法学部・薬学部・工学部・国際関係学部・生物資源科学部で50%を超えているのに対し、歯学部では校舎が都心でコンパクトな立地と良好なためか20.6%と閲覧率が低くなっています。

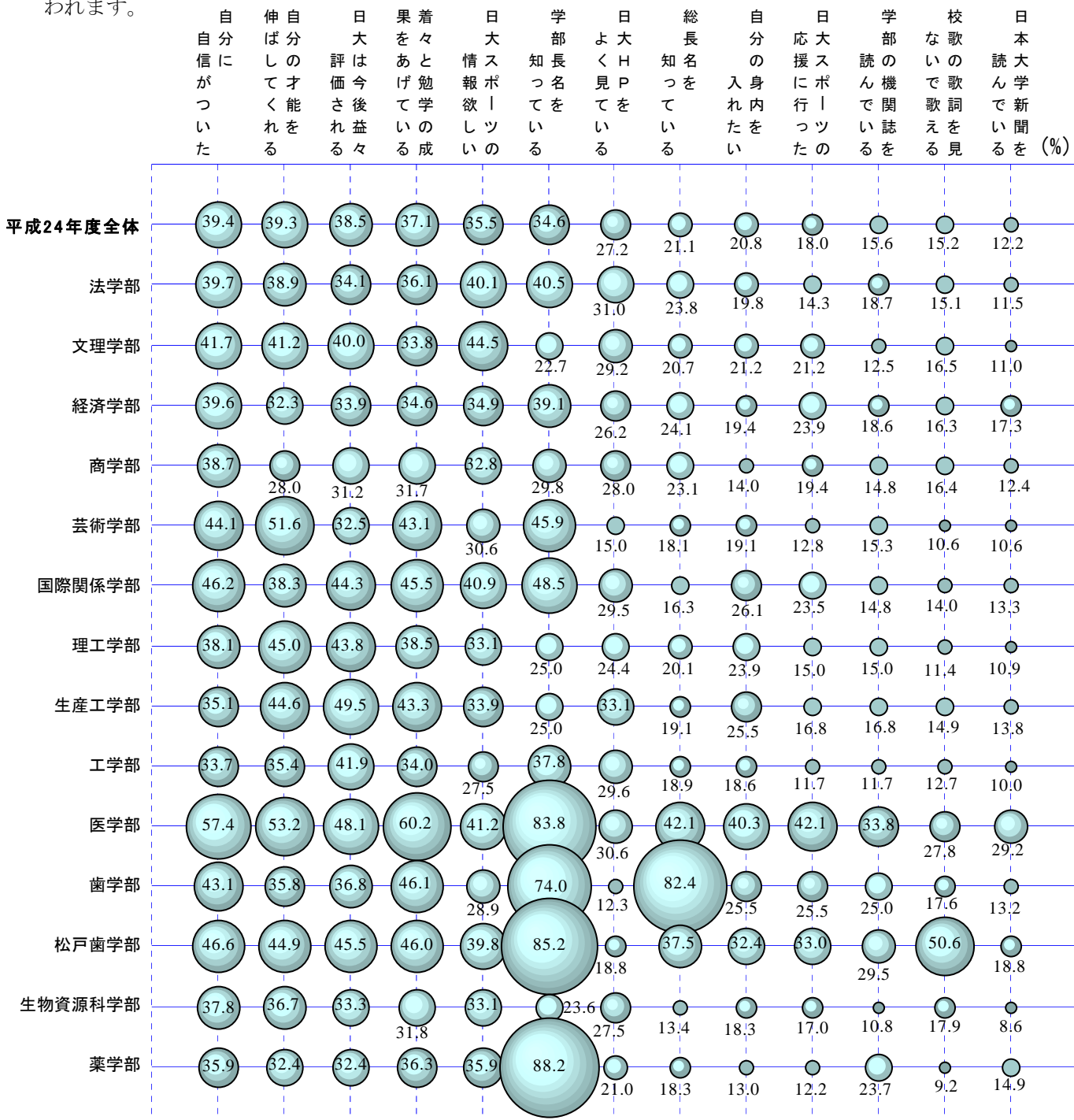


5.現在の意識・行動(下位13項目)

「自分に自信がついた」学生は医学部で6割と突出するも、他の学部では大差はない。
「学部長名」の認知率は医・歯学部系と薬学部で80%前後と高い。

学生の現在の意識について21～33位までを表示したものが下図です。

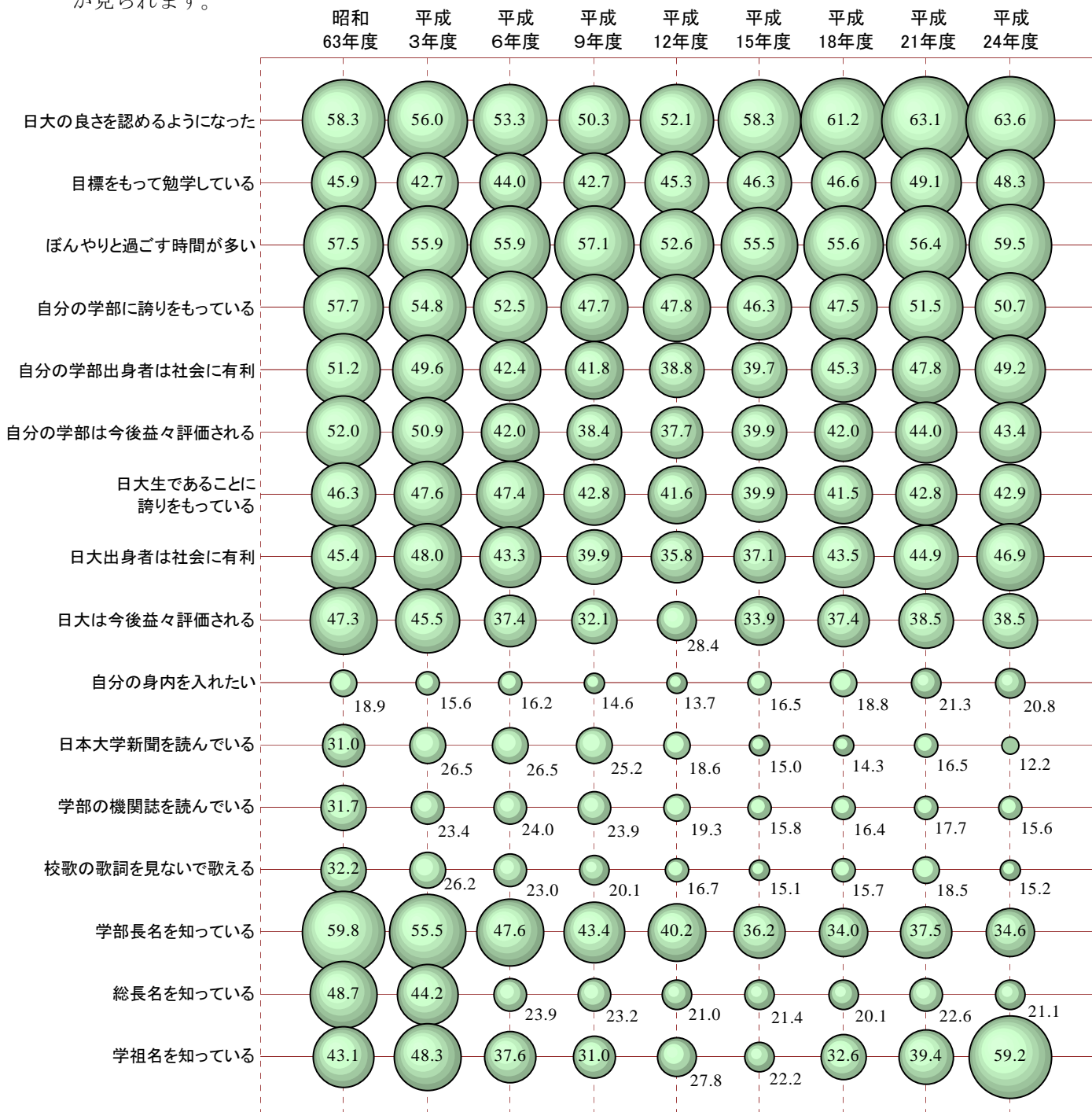
「自分に自信がついた」学生は全体で39.4%となっており、医学部で57.4%と突出していますが、他の学部は40%前後となっています。「学部長名を知っている」は全体では34.6%ですが、医・歯学部系と薬学部で74～88%と非常に高くなっています。「日大のホームページをよく見ている」が27.2%であるのに対し、「日本大学新聞をよく読んでいる」学生は33項目中最低の12.2%、「学部の機関誌を読んでいる」も15.6%と少数であり、近年益々本学のホームページが充実してきていることや、スマートフォンなどの携帯端末の急速な普及などにより、本学に関する学生の情報取得方法が変化しているものと思われます。



6.現在の意識・行動の経年変化

「日大の良さを認める」学生は15年前から増加傾向。
約10年前から日大帰属意識と学部帰属意識が高まる傾向。

第1回調査（昭和63年）から継続している調査項目について、現在の意識・行動の経年変化を見ると、「日大の良さを認めるようになった」は、平成9年度の50.3%から年々増加し15年間で13.3ポイント増となっています。「目標をもって勉学している」学生も平成9年度の42.7%から平成21年度の12年間で6.4ポイント増加しましたが、今年度は若干減少しています。一方「ぼんやりと過ごす時間が多い」学生も平成12年度の52.6%より12年間で6.9ポイントの増加が見られます。「自分の学部出身者は社会に有利」「日大出身者は社会に有利」という意識は平成12年度から漸増傾向、「自分の学部に誇りをもっている」「日大生であることに誇りをもっている」も平成15年から漸増傾向が見られ、日大帰属意識と学部帰属意識が高まる傾向が見られます。



6.現在の意識・行動の経年変化(3年前との比較)

3年前と比較して、学祖名の認知率が急増。テレビ放映と授業開講の影響？
薬学部は「日大出身者は社会に有利」「良い影響を受ける教職員に会えた」など
8項目で10ポイント以上増加。

現在の意識・行動についての回答を3年前と比較したものが下表です。

「学祖名(山田顕義)を知っている」が全体で59.2%で19.8ポイント増、各学部とも約10ポイント以上増、歯学部系・薬学部・国際関係学部では30ポイント以上増と目立っています。平成24年1月に『新春歴史スペシャル 知られざる幕末の志士 山田顕義物語』がテレビ放映されたことや、学部によっては学祖についての授業を開講していることが増加の要因として考えられます。

学部別に10ポイント以上増加した項目を見ると、薬学部で「日大出身者は社会に有利」「将来の職業希望がはっきりしている」「良い影響を受ける教職員に会えた」など8項目と多く、芸術学部では「日大の良さを認めるようになった」「自分の学部に誇りをもっている」、松戸歯学部では「必要な基礎学力は補習して欲しい」「将来に希望がもてるようになった」などそれぞれ4項目、医学部・歯学部では3つの項目が10ポイント以上増加しました。一方、10ポイント以上減少した項目を見ると、歯学部で「日大の良さを認めるようになった」など6項目、商学部で「勉強意欲がもてるようになった」など5項目と多くなっており、直近の3年間で意識・行動に大きな変化が見られます。

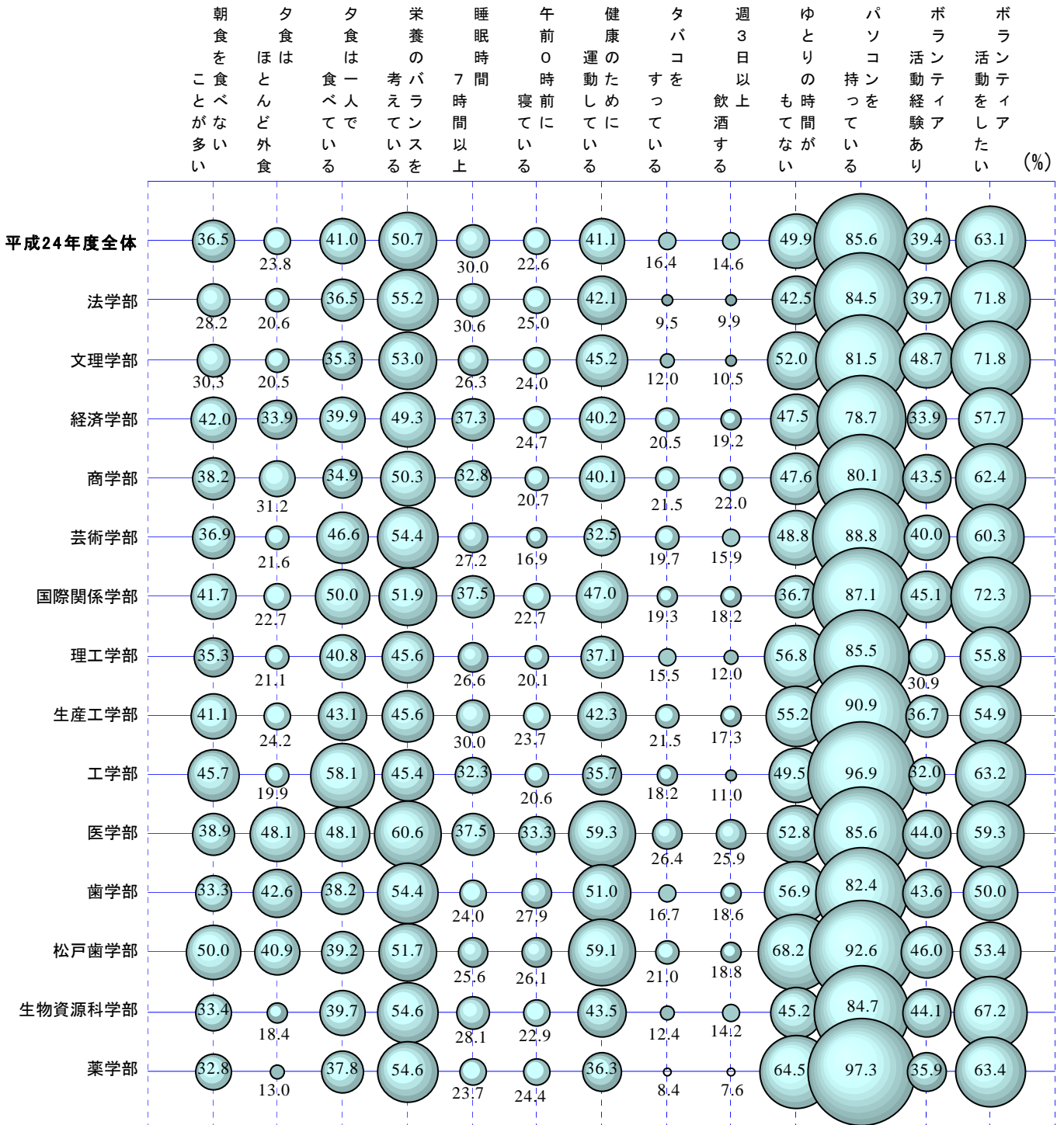
現在の意識・行動の前回(3年前)との比較	白字 ……10ポイント以上増加								黒字 ……10ポイント以上減少								<増減ポイント>
	H24年度	前回差	法	文理	経済	商	芸術	国際	理工	生産工	工	医	歯	松戸歯	生物資源	薬	
日大の良さを認めるようになった	63.6%	0.5			-6.0		10.3			5.1			-19.6	6.8			
勉強意欲がもてるようになった	55.7%	-0.4			-7.6	-12.3	9.8										
将来に希望がもてるようになった	41.6%	2.5			5.7			5.4		11.5			12.8	10.8		8.2	
自分に自信がついた	39.4%	0.0										9.8		8.1		9.7	
人間性が豊かになった	61.8%	1.7		6.2							6.4		-10.1				
着々と勉学の成果をあげている	37.1%	-1.4					-11.0	5.7	-6.0			8.8				9.4	
創造性が養われた	44.9%	-0.1									5.5	9.9	-13.2				
基礎学力の不足を痛感する	74.0%	1.2											-10.9	8.9			
必要な基礎学力は補習して欲しい	52.0%	-0.8										5.0		12.0	-5.4	-8.3	
目標をもって勉学している	48.3%	-0.8				-8.6	7.3		-6.3				7.1			5.2	
将来の職業希望がはっきりしている	46.7%	-0.8		5.0	-11.2	-10.4	7.5				6.7	6.6				14.3	
ぼんやりと過ごす時間が多い	59.5%	3.1				8.4		5.3			5.7	6.2	-6.1		6.4		
良い影響を受ける教職員に会えた	49.5%	-0.8				-8.0		-5.4					-6.8			11.5	
自分の学部に誇りをもっている	50.7%	-0.8	-5.9				-8.8	10.5			-5.5					10.4	
自分の学部出身者は社会に有利	49.2%	1.4					-11.8	9.2	7.1					5.7		7.4	
自分の学部は今後益々評価される	43.4%	-0.6			-5.4	-6.1	5.2					5.0	7.3	-10.3			
日大生であることに誇りをもっている	42.9%	0.1						9.5			-7.0	7.2		5.9		9.4	
日大出身者は社会に有利	46.9%	2.0	7.9	5.2	-7.8		6.4		9.5	-6.2	7.5	8.9	10.7			15.7	
日大は今後益々評価される	38.5%	0.0				-6.4				5.3		8.7					
自分の身内を入れたい	20.8%	-0.5					-10.6	9.3					14.8	5.3			
自分の才能を伸ばしてくれる	39.3%	0.4					-9.0			7.6			10.4				
日大スポーツ活躍は誇りだ	52.9%	-1.2	5.0	-6.6	-9.7	-5.8					6.8					10.8	
日大スポーツの応援に行った	18.0%	-1.5						5.2	-10.1	-5.1		9.4		5.9			
日大スポーツの情報欲しい	35.5%	-1.6			-9.0		5.7		-5.2					8.1			
日大スポーツを見に行きたい	39.5%	-2.3			-9.5	-6.2	6.0		-7.4			-5.1	-6.3				
日本大学新聞を読んでいる	12.2%	-4.3			-8.5	-5.1			-10.2	-6.0			-5.4			6.4	
学部の機関誌を読んでいる	15.6%	-2.1							-9.4				-10.5				
校歌の歌詞を見ないで歌える	15.2%	-3.3			-7.1	-8.5			-6.3			8.1	-7.5				
日大HPをよく見ている	27.2%	-2.6			-8.2				-8.1	-6.9	8.0			-7.5	6.1		
学部のHPをよく見ている	48.0%	1.8	8.4		-10.5		9.6						-6.2		15.8	22.6	
学部長名を知っている	34.6%	-2.9	-5.4		-15.0	-6.6	12.2		-6.1		5.9	-10.7	6.6	-8.8		14.8	
総長名を知っている	21.1%	-1.5					6.0			5.0	9.4	49.1	9.6	-30.6		6.9	
学祖名を知っている	59.2%	19.8	21.8	20.5	9.9	25.8	26.2	30.6	18.2	8.5	10.0	27.0	33.1	33.3	24.5	31.9	

(注)学部別は、増減が5ポイント未満は非表示。

7.日常生活および個人行動について

外食を控えて栄養を考えた食事を摂っている学生が多く、喫煙率は日本の成人喫煙率より低い。勉学などで「ゆとりの時間がもてない」が半数と多い中、「ボランティア活動」希望が6割。

学生の食事面を全体で見ると、「栄養のバランスを考えている」が50.7%、「夕食はほとんど外食」が23.8%と低めになっており、外食を控えて栄養を考えた食事を摂っている学生が多いようです。睡眠に関しては「午前0時前に寝ている」が22.6%、「7時間以上」が30.0%と低く、夜型で睡眠時間を十分にとっていない学生が多いようです。本学ではキャンパス内の分煙化を進めています。喫煙率は16.4%で日本人の成人喫煙率（20.1%；平成23年度厚生労働省国民健康・栄養調査）より低くなっています。勉学などのために「ゆとりの時間がもてない」学生は半数（49.9%）となっており、医・歯学部系・薬学部や理工学部・生産工学部で高くなっています。「ボランティア経験」は39.4%ですが、「ボランティア活動をしたい」学生は63.1%と高くなっています。



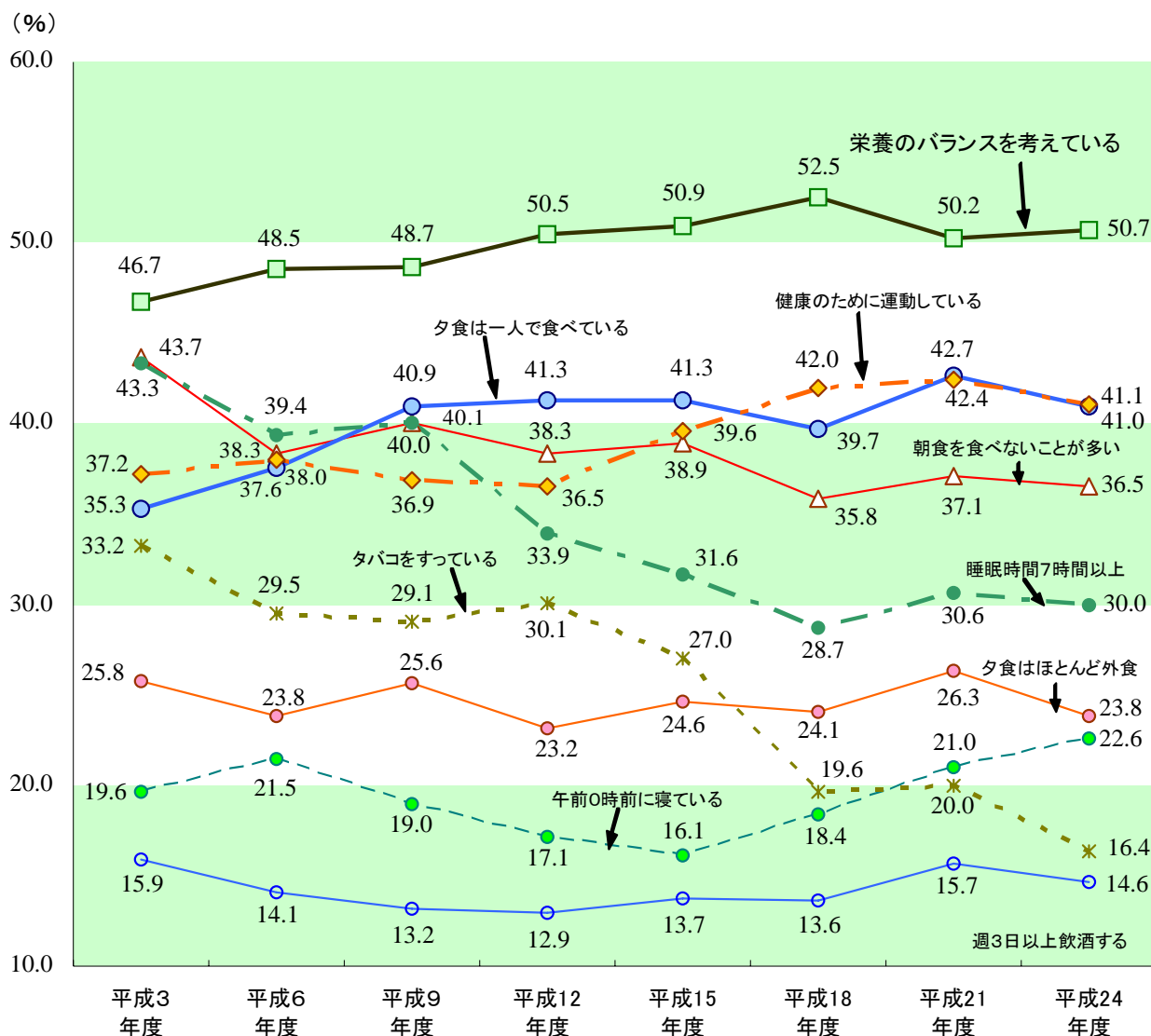
8.日常生活についての経年変化

食事面に気をつけている学生が微増する一方で、短時間睡眠の学生は増加傾向。
タバコ離れが年々進行。歯学部系・理工学部系で顕著。

学生の日常生活について平成3年度からの経年変化を見ると、「栄養のバランスを考えている」学生が年々増加傾向にありましたが、平成21年度に減少に転じた後、平成24年度は再び0.5ポイント増加しています。3年前と比較して「夕食はほとんど外食」学生は2.5ポイント減少、「朝食を食べないことが多い」が0.6ポイント減少しており、食事面に留意している学生が直近の3年間で微増しています。「睡眠時間7時間以上」は21年前から13.3ポイント減少、「午前0時前に寝る」は9年前から6.5ポイント増加しており、睡眠時間が比較的短い学生が増加傾向にあります。

また、「タバコをすっている」学生は平成3年度の33.2%から16.4%と16.8ポイントと大きく減少、直近の3年間で3.6ポイント減となっており、健康被害の解消を目指した世界的なタバコ規制やタバコの値上げ・学内の分煙化が進む中、本学の学生もタバコ離れ傾向が目立っています。

学部別に平成3年度から21年間で減少傾向の強い生活行動を見ると、文理学部と商学部では「睡眠時間7時間以上」が約20ポイント減、歯学部・松戸歯学部・生物資源科学部・生産工学部・工学部・理工学部では「タバコをすっている」が約20～23ポイントの減と目立っています。



9.ゆとり・余裕についての経年変化

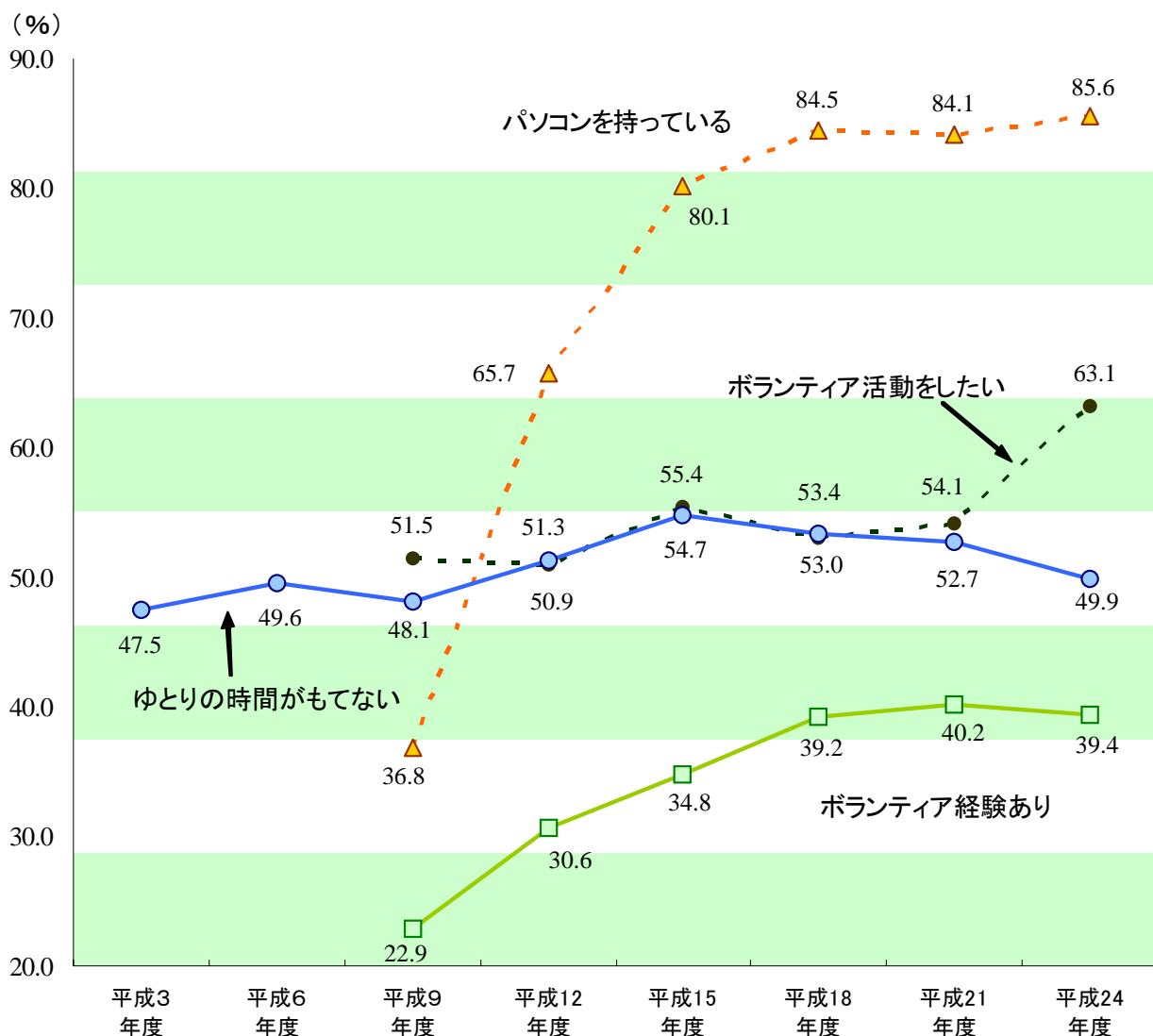
ゆとりの時間がもてない学生は9年前より減少傾向。授業改善の効果？
ボランティア希望が直近の3年間に急増。東日本大震災に起因？

ゆとり・余裕面での経年変化を見ると、「（授業のための勉強やレポート作成などのために）ゆとりの時間がもてない」学生が平成3年度から平成15年度の12年間で47.5%から54.7%と7.2ポイント増加しましたが、平成18年度から減少に転じ、平成24年度は49.9%と9年間で4.8ポイント減少しています。

学部別に見ると、歯学部・国際関係学部・工学部・生産工学部では平成15年度から9年間で15ポイント前後減、医学部では平成18年度から6年間で14.3ポイント減少しています。例えば、生産工学部では平成15年度から学生に対して『授業評価アンケート』を実施し、教員が教育効果を勘案し授業改善に取り組んでいます。他の学部でも同様の取り組みを通して授業方法の改善等の取り組みがなされていると推測できます。

パソコンの所有率は、平成9年度の36.8%から平成18年度の84.5%と9年間で47.7ポイントと急激に伸びています。今年度は85.6%となっていますが、学生自身のノートパソコンを活用した授業を実施している薬学部では97.3%に達しています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響を反映しているものと思われますが、「ボランティア活動をしたい」学生が今年度は63.1%と、直近の3年間で9.0ポイントと大きく増加しています。福島県郡山市にキャンパスがある工学部では20.3ポイント増と目立っています。

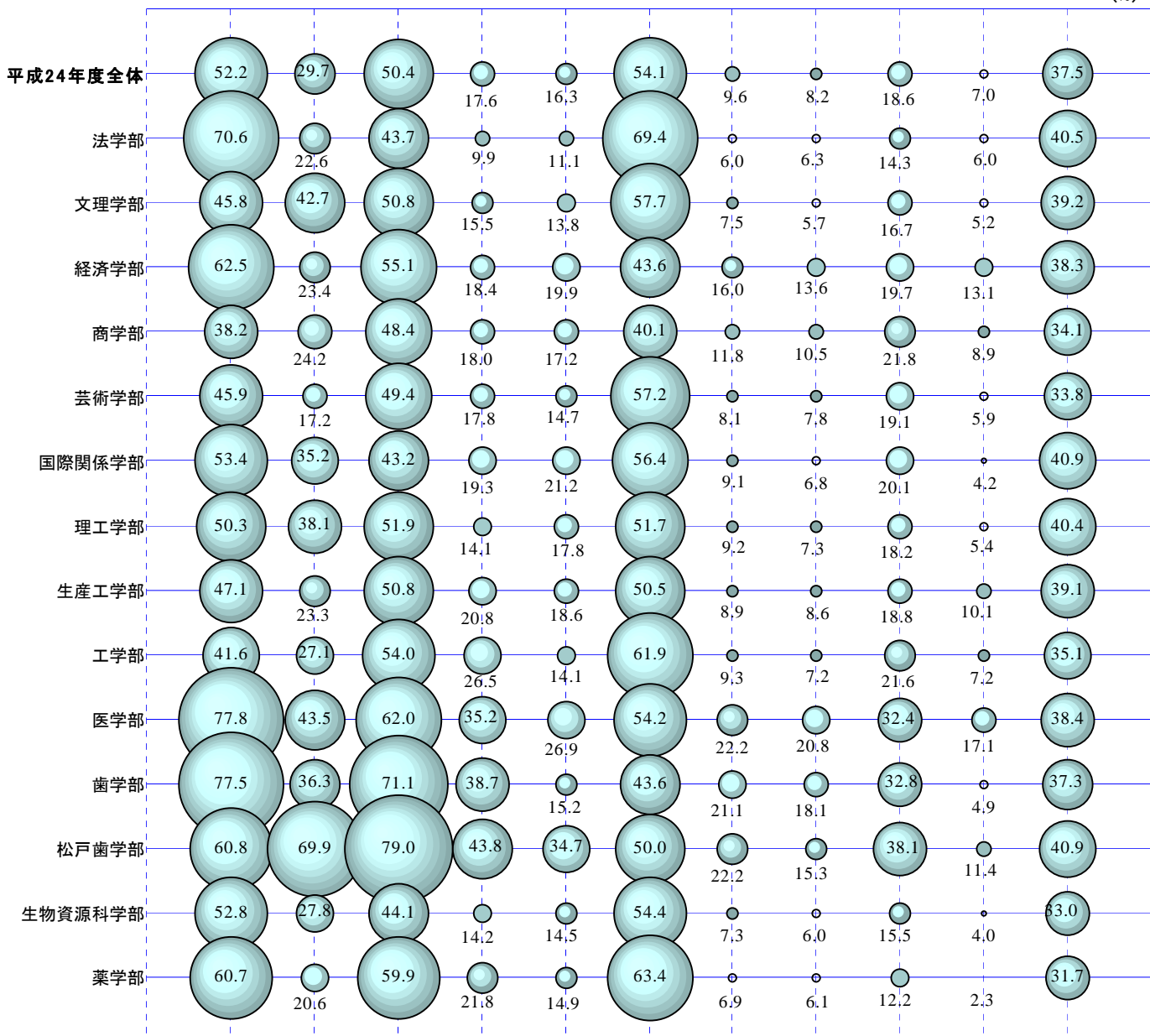


10.安心できる大学環境について

「大学は学生の個人情報に細心の注意を払っている」が54.1%。法・薬・工学部で高い。校舎内での災害時の安全性に不安がある学生は52.2%、避難方法を知っている学生は3割。

全体で見ると、近年個人情報に対する関心が高まる中、「大学は学生の個人情報に細心の注意を払っている」とする学生が54.1%と高く、法学部・薬学部・工学部で60%を超えています。「校舎内で火災・地震等が発生した時の安全性に不安を感じる」学生も52.2%と高く、特に医学部・歯学部・法学部で70%以上と目立っています。一方で、「避難方法を知っている」学生は29.7%にとどまっています（松戸歯学部では69.9%と高い）。「学内での盗難や器物破損の危険性を感じる」は全体で50.4%、医・歯学部系で高くなっています。「入学時に学生生活を安全・快適におくるためのマニュアルやガイダンスが必要」とする学生が全体の37.5%で、学部別に見ても31.7%から40.9%の間に分布しており、全学部で要望があると言えます。

性	震	校	方	震	校	感	物	学	た	盗	学	危	ら	タ	を	情	大	た	ハ	教	た	ラ	学	た	欠	教	察	ハ	学	イ	の	入
に	等	舎	法	等	舎	ず	破	内	こ	ま	内	険	学	方	情	報	学	こ	ら	職	こ	や	生	と	員	等	ハ	内	の	入		
不	発	内	を	知	生	る	損	の	と	れ	で	性	内	暗	っ	っ	学	と	と	員	い	間	と	か	等	ハ	内	の	入			
安	災	を	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火		
全	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地		
感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感	感		
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず		
る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る		

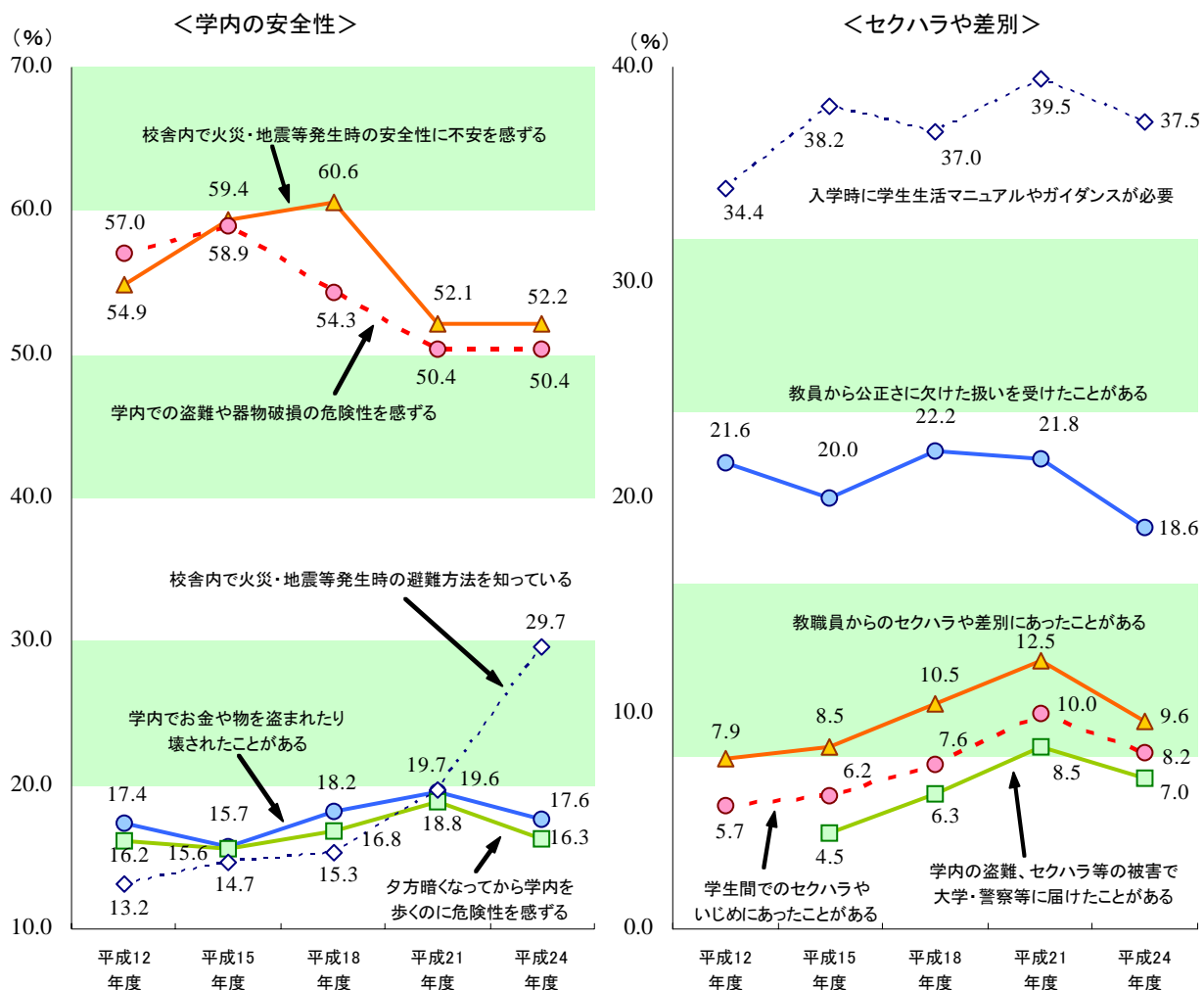


11.安心できる大学環境の経年変化

校舎内での災害発生時の安全性に不安を感じる学生は平成21年度に大幅減、3年間横這い。直近の3年間で「避難方法を知っている」は急増、セクハラや差別問題も減少。対策効果鮮明。

学内の安全性について、この項目が調査に含まれた平成12年度からの経年変化を見ると、「校舎内で火災・地震等発生時の安全性に不安を感じる」学生は平成18年度から3年間に60.6%から52.1%と大幅に減少しましたが、直近の3年間は横這いとなっています。商学部では平成18年度の72.9%から平成24年度38.2%と6年間で34.7ポイントの大幅減となっており目を見張ります。同時期に芸術学部と国際関係学部では10ポイント以上減少、平成18年度から3年間では薬学部・文理学部・松戸歯学部・薬学部で10ポイント以上減少しており、多くの学部で校舎の新設や耐震工事が着々と進んでいることがうかがえます。「避難方法を知っている」学生は直近の3年間で10.0ポイント増加して29.7%と災害時の避難方法の指導効果が表れており、今後も継続していくことが期待されます。

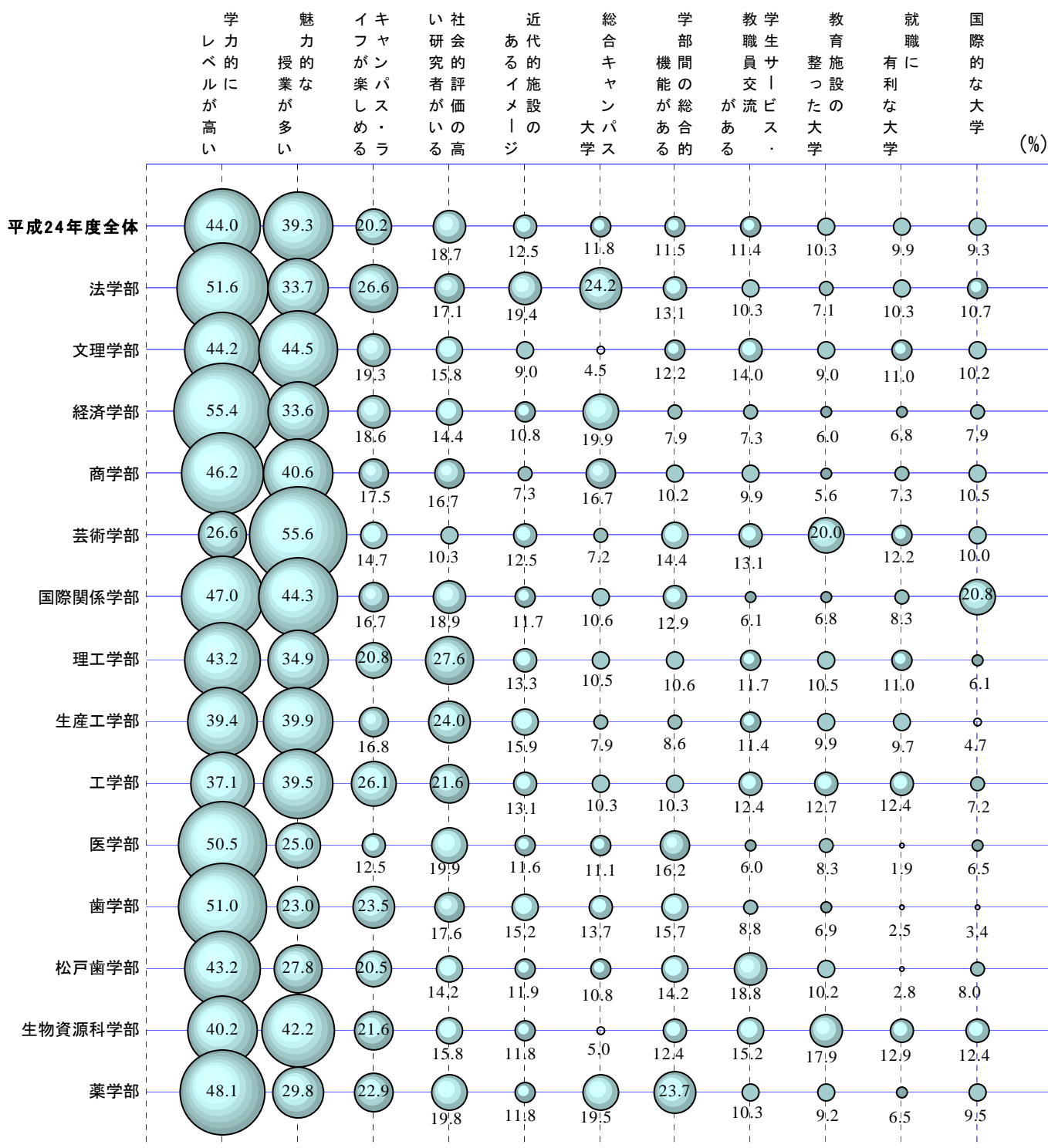
セクハラや差別について見ると、「教職員から」が平成21年度の12.5%から9.6%と3年間で2.9ポイント減、「学生間」が同期間に10.0%から8.2%と1.8ポイント減といずれも減少傾向にあります。本学では平成17年に「セクシュアル・ハラスメント防止に関する指針」を制定、平成22年度から改定した最新の指針を施行しこの問題に積極的に取り組んでいます、その成果が表れているようです。



12. 日本大学を魅力ある誇れる大学にするために重要なこと

魅力ある誇れる大学にするためには「学力レベルの高さ」と「魅力的な授業の多さ」が重要。施設やアメニティの充実より『勉学面のレベルアップ』に、学生はフォーカス。

日大を魅力ある大学にするために特に重要なことについて学生の回答を全体で見ると、「学力的にレベルが高い」が44.0%で最も高く、「魅力的な授業が多い」が39.3%で2番目となっています。「キャンパス・ライフが楽しめる」「社会的評価の高い研究者がいる」は20%前後、「近代的施設のあるイメージ」が12.5%で続いており、施設面の刷新やアメニティの充実より『勉学面のレベルアップ』が魅力ある誇れる大学になるために重要だと考える学生が多いことが分かります。



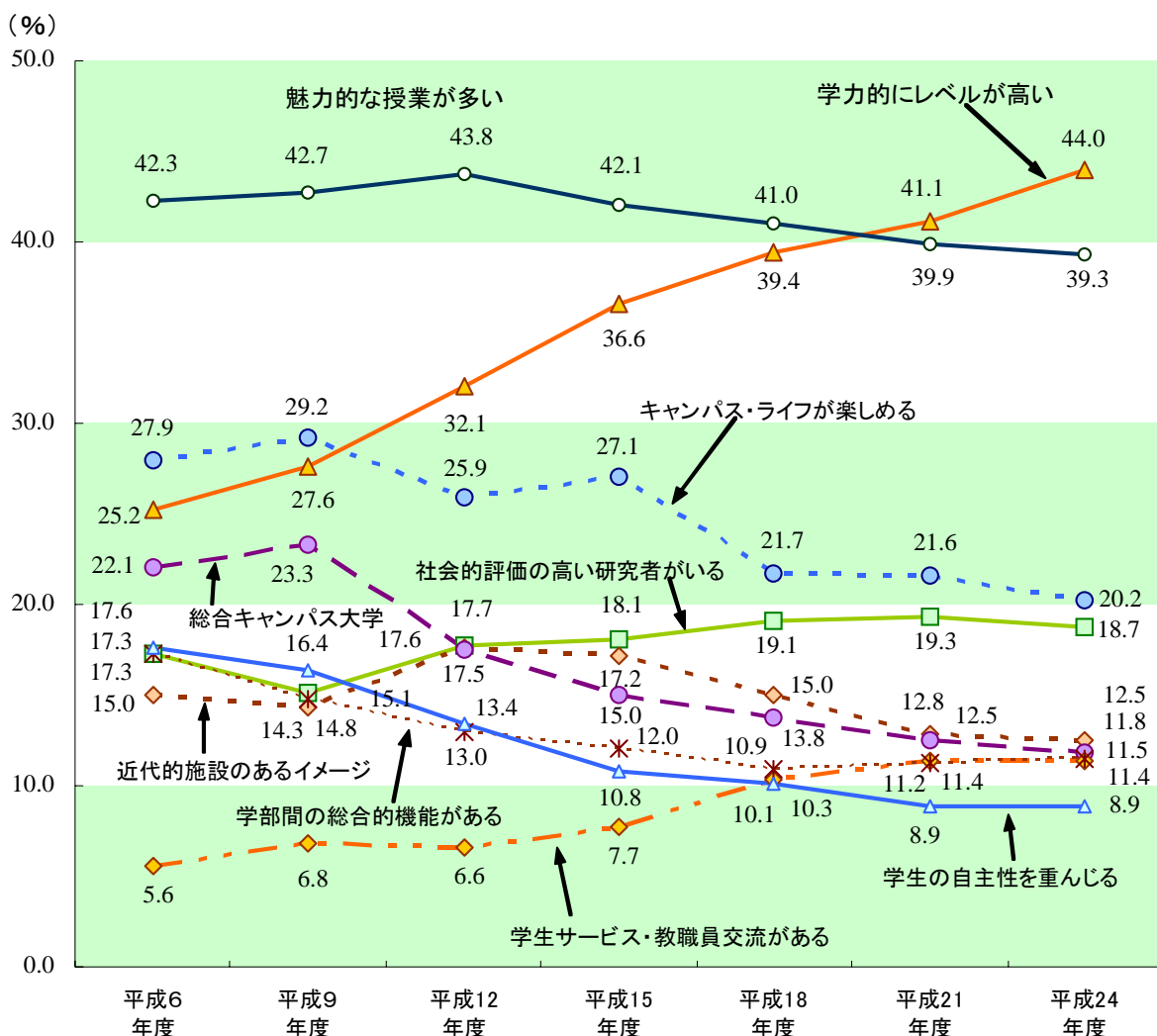
13. 日本大学を魅力ある誇れる大学にするために重要なことの経年変化

魅力ある誇れる大学づくりには『学力的レベルアップ』が重要とする傾向が年々強まる。大学全入時代に入り大学間の競争が激化する中、本学学生からの生きた指摘。

日大を魅力ある誇れる大学にするために特に重要なことについての学生の回答を平成6年度から経年変化で見ると、「学力的にレベルが高い」は18年間継続して増加し、25.2%から44.0%と18.8ポイントの大幅増、平成21年度からは「魅力的な授業が多い」を逆転しトップとなっています。「キャンパス・ライフが楽しめる」と「総合キャンパス大学」は概ね漸減傾向にあります。「社会的評価の高い研究者がいる」は平成9年度から12年間で4.2ポイント増加していましたが、直近の3年間では0.6ポイント減とほぼ横這いとなっています。また、平成19年、現在の社会状況に即応しかつ本学の総合性を発揮することを目的として、本学の教育の理念と目的が『自主創造』とされましたが、「学生の自主性を重んじる」という回答は平成6年度の17.6%から平成21年度の8.9%まで15年間で8.7ポイント減少、直近の3年間は横這いとなっており、現時点では、本学と学生の重視点に乖離が見られます。

学部別に見ると、経済学部・歯学部・文理学部・法学部・国際関係学部の学生は「学力レベル」重視傾向が強く見られます（平成6年度から18年間で約21～29ポイント増）。

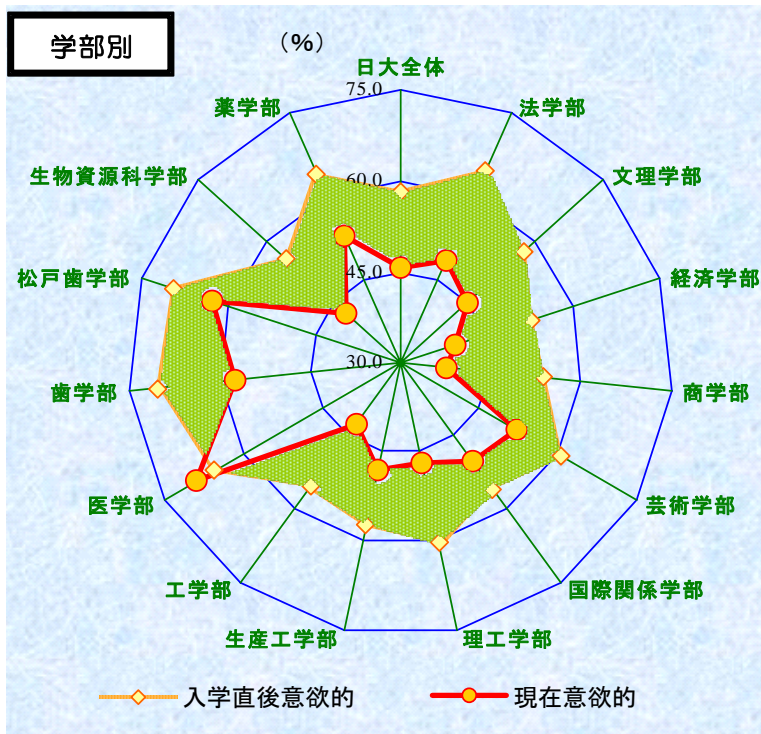
大学全入時代に入り大学間の競争が激化し、一方で社会のグローバル化が進展して行く中、本学がさらに魅力を高めていくために必要な施策として、『学力的レベルアップ』は本学学生からの生きた指摘と言えるでしょう。



入学時のモチベーションが成果として表れているか

学生としての意欲が入学直後から現在に至ってどう変化しているかを見ます。

学生のモチベーション



左のグラフは、入学直後の学生のモチベーションが現在に至るまでにどう変化しているかについて、学部別に示しています。『入学直後意欲的』と、『現在意欲的』の尺度として用いた項目の平均値(※詳細は下記の囲み参照)は、医学部を除く学部で後者が下回っており、入学直後と比べ在学中はモチベーションが下がる傾向が見られます。特に法学部や商学部で16ポイント台の減、生物資源科学部・理工学部・経済学部で13ポイント台の減と他の学部より減少幅が大きくなっています。

医学部は「入学時に卒業後の進路・就職をすでに意識していた」学生の比率が高く、唯一モチベーションが入学直後より上昇しています(3.6ポイントの増)。また、国際関係学部・松戸歯学部・芸術学部も下降ポイントが一桁台にとどまっており、意欲を維持している学生が多いことがうかがえます。

入学後のモチベーションを維持または向上を図る方策が、継続的に必要であると考えられます。

※入学直後意欲的とは:「入学時に卒業後の進路・就職を意識」と「多くの授業に出て良い成績をとる」の2項目の%の平均値

※現在意欲的とは:入学後に「勉学意欲がもてるようになった」「将来について希望がもてるようになった」「着々と勉学の成果をあげていると思う」

「目標を持って勉学している」の4項目の%の平均値

経年変化

モチベーションに関する経年変化を本学全体で見ると、『入学直後意欲的』な学生は平成12年度から微増傾向にあります。『現在意欲的』な学生も平成15年度以降大幅に増加していましたが、平成24年度は3年前から横這いとなっています。

平成12年度と比較して平成24年度に最も『現在意欲的』が上昇した学部は生産工学部で17.8ポイント増、国際関係学部・理工学部・文理学部・医学部などで10ポイント台の増となっています。また、文理学部・国際関係学部・生産工学部・松戸歯学部は平成12年度以来上昇が続いています。

一方、『入学直後意欲的』について平成12年度と比較すると、歯学部が約10ポイント増で増加幅が最大となっています。

経年変化

